

(2007. 8.29 信濃毎日新聞)

## 焼却施設候補地選びの経緯質す 北ア広域連合議会

北アルプス広域連合議会の八月定例会は二十八日、二日間の日程で開会し、白馬村飯森を建設候補地としている新ごみ焼却施設計画について、昨年度一般会計当初予算に報酬費を盛った構成と違うメンバーの用地選定委員会で候補地を絞り込んだ経緯を議員が質した。

同会計の決算認定案の質疑で大和幸久議員(大町市議)が質問した。

昨年度の当初予算では、用地選定は公募委員や専門家らで行うとし、委員九人分の報酬費七十八万円余を計上していた。広域連合は実際には、新施設で処理を計画している大町市、白馬村、小谷村の助役や担当課長ら十一人による選定委員会で検討し、今年二月に候補地を決めた。報酬費は同月、議会に提出した補正予算案で全額を減らし、可決された。

広域連合側は、構成を変えた理由を「用地選定にあたった公募委員に抗議電話が殺到するという他地区の事例を踏まえた」と説明、議会側にも当時、説明しているとした。

大和議員は、用地選定委員会とは別に広域連合の打ち合わせ会議が昨年五月と十月に開かれていたことを挙げ、情報公開の文書から、委員会で協議するより前に候補地を決めていたと受け取れると質問。連合側は「首長や課長が変わった時に顔合わせとそれまでの経緯を確認するために開いた会議」とし、否定した。

(2007.8.29 中日新聞)

## ごみ処理施設計画 撤回陳情継続審議 北ア広域連合議会

北アルプス広域連合議会の八月定例会が二十八日、大町市役所議会棟で開会した。広域連合が白馬村飯森地区を候補地に進めるごみ処理施設建設計画について、ごみ処理特別委員会は、計画の白紙撤回を求める市民団体の陳情を継続審査とした。その一方で、本会議では、候補地選定の過程に不透明な部分があるとの指摘も上がった。

本会議で大和幸久議員(大町市)は、用地選定委員に当初予定していた住民代表ら公募委員を説明もなく取りやめたほか、用地選定委員会とは別に、首長参加の打ち合わせ会議で秘密裏に候補地が絞り込まれたことが疑われると指摘。

これに対して連合側は、公募委員が反対派の抗議で辞任に追い込まれたという他地域の事例を踏まえ、公募委員を取りやめたと説明。議会に対しても報告したと答弁した。また、候補地選定の経過について、連合長の牛越徹大町市長は「間違った方法はとっていない」と強調した。市長は、打ち合わせ会議は、あくまでも調整や準備のための事務的な会議としている。この日の本会議ではこのほか、監査委員の選任と高規格救急車導入の〔の選任と高規格救急牽導契約を可決した。

(2007.8.29 大系タイムス)

### 新ごみ処理施設計画 質問に「適正」強調

北アルプス広域連合議会 8 月定例会は 28 日、開会し、昨年度各種会計決算や本年度一般会計補正予算など 12 議案を上程した。同連合の新ゴミ処理施設建設に対して議員から、昨年度予算の執行状況や選定経過に対する質問があがったが、同連合側では適正な手続きによる選定を強調した。

質問した大和幸久議員は、18 年度当初予算で計上されていた用地選定委員 9 人の報酬額 78 万 8000 円が、決算で削減されていると指摘。これに対し広域側は、他地域でのごみ処理用地選定で委員を務めた住民に抗議が殺到したことを受けて「地域の事情に詳しい助役や担当課長を（用地選定委の）委員とした」と答えた。

また、昨年 5 月の第 1 回選定委員会前の関係者による事前打ち合わせで候補地の絞込みを、10 月に委員らが出席して聞いた打ち合わせ会議で、「事前に候補地を決めていたのでは」と追求。広域側は、5 月は人事異動に伴う課長の顔合わせ、10 月は改選による首長の顔合わせとして「（会議では）これまでの経過を再確認しただけ」と説明した。

平成 18 年度一般会計決算は、歳入で前年度比 13・2%増の 13 億 6885 万 8000 円、歳出で前年度比 15・1%増の 13 億 5756 万 7000 円。差し引き残額の 1129 万 1000 円が翌年度へ繰り越される。本年度一般会計補正予算は歳入歳出に 1024 万 4000 円を追加し、総額 15 億 4905 万 7000 円。主な歳出は予備費で 686 万 8000 円となった。

牛越徹連合長は、ごみ処理建設で自馬村内外から 1 万 5000 を超える反対署名の提出を受け、「住民の気持ちの一端として受け止めている」とした上で、住民から寄せられた質問に答えるため「早期に環境影響調査を実施させていただきたい」との考えを述べた。

(2007.8.30 朝日新聞)

## ごみ処分場建設候補地 未公表の会議で決定

### 北ア広域連合 議会で経緯追及

北アルプス広域連合(連合長＝牛越徹・大町市長)が白馬村飯森地区に建設を計画するごみ処理施設について、当初計画された公募の民間委員らによる用地選定委員会がつくられず、行政関係者だけで候補地を決めた経緯が 28 日の連合議会で取り上げられた。連合側は「ほかの地域で、建設用地を発表後に反対住民から選定委員会の住民代表に抗議が殺到するなどの例があり、混乱を避けるために変更した」と説明した。

同連合は大町市と北安曇郡の 4 町村で構成。同市と白馬、小谷両村のごみを処理する施設を 2010 年の運転開始を目指し、白馬村内での住民説明会を続けてきた。

連合議会で経緯を質問した大和幸久議員(大町市議)はさらに、情報公開制度で入手した文書によって「ごみ処理広域化打ち合わせ会議」という公表されていない会議で建設候補地が決められたことが明らかになった、と追及。連合側は、昨年 5 月に開いた打ち合わせ会議は交代した各市町村の担当課長の顔合わせで、用地選定の経過の確認をただけ、とした。

大和議員はまた、昨年 10 月 20 日の打ち合わせで事実上、候補地が決められたことを示す文書があると指摘。連合側はこの文書を「何通りか作成した進行次第の一つ」とし、「当日は進行次第とは無関係に会議が進んだ。大町市長、白馬村長らが交代し、打ち合わせは経過の再確認のためだった」と説明した。

同議会ごみ処理広域化特別委員会は、白馬村住民から出された建設計画の白紙撤回を求める陳情の継続審議を決めた。